中国核実験

1964年10月16日。中国政府はウイグルのロプノールで中国初の核実験を行った。日本で東京オリンピックが開催されていたその時にである。中国政府は1996年まで45回の核実験を繰り返したが、第三者調査も受け入れずその実験による被害は解明されていない。

1996年まで延べ46回行われた核実験はアメリカやソ連の行った核実験とは異なる内容でした。

核実験場が都市に比較的近い場所で、安全区域を設けず、避難誘導もせずに行われていたこと。
現在まで地域の住民に対して放射能被害についての説明がされていないこと。
広範囲に被害が及ぶ地表核爆発実験が行われたこと。

中国政府は「核実験の放射能による影響はない」と否定していますが、その一方で実験に関わった退役軍人への補償をはじめました。
核実験の実態について中国政府は発表を拒んでいますが、被害は周辺国に及び、近年中国の核実験についての研究は、ソ連崩壊以降の隣国カザフスタンのデータから客観的な検証が行われています。

ウイグル人の被ばく者たち。

※1957年。フルシチョフと毛沢東の中ソ会談で・・・

中国には六億の人民がいる。核戦争で半分死んでも半分生き残り、時間がたてばまた、六億に戻る

中華人民共和国
初代国家主席 毛沢東

©二羊カ

上の発言から50年以上たった今、中国の人権状況は改善されるどころか悪化して多くの人々が中国政府の犠牲になってきました。隣国の日本人が中国の問題を国際社会と共に訴えて行くことはとても重要なことなのです！

DEATH ON THE SILKROAD
シルクロードの死神

中国の核実験が行われたウイグルでは奇病、癌の発生率が中国のほかの地方に比べ高く、核実験の影響によるものと考えられる。
１９９８年の７、８月にイギリスのテレビ局チャンネル４で、「Death on the silk road（シルクロードの死神）」というドキュメンタリーが放送された。このドキュメンタリーで現地調査したのがウイグル人医師アニワル・トフティ氏である。

アニワル氏はチャンネル４の取材班としてウイグルの村々を訪問し、被曝によると思われる人々の健康調査を行った。中国政府は核実験の際に、内地に影響が少なくなるよう、東から西に風が吹くときを選んだ。このため、ロプノールから西に向けて核生成物質が大量に降下したと考えられる。
実際に、口唇口蓋裂ばかり、あるいは大脳未発達の赤ちゃんばかりが生まれてくる村もあったという。中国は核実験の被害を公表せず、現地調査も許可しないため、４０年以上に渡って被曝者たちの存在は放置されたままだ。

※「Death on the silk road(シルクロードの死神)」上映会やDVDの貸し出しについては日本ウイグル協会にお問い合わせを。http://uyghur-j.org

RFUJ
RADIO FREE UYGHUR JAPAN
Radio Free Uyghur Japan
ラジオフリーウイグルジャパン
http://rfuj.net

ASIAN FREEDOM
ASIAN FREEDOM NEWS JAPAN
アジアンフリーダムニュースジャパン
http://afnj.org

20110731
邸陣 DESIGN